

第1回 県立高等学校改革懇談会 『梁川・保原』

日時：令和元年 7月17日（水） 14：00～15：30
場所：保原高等学校 視聴覚室

福島県教育委員会

本日の進め方

1

県立高等学校前期実施計画策定の経緯

2

梁川高校・保原高校の現在の状況

3

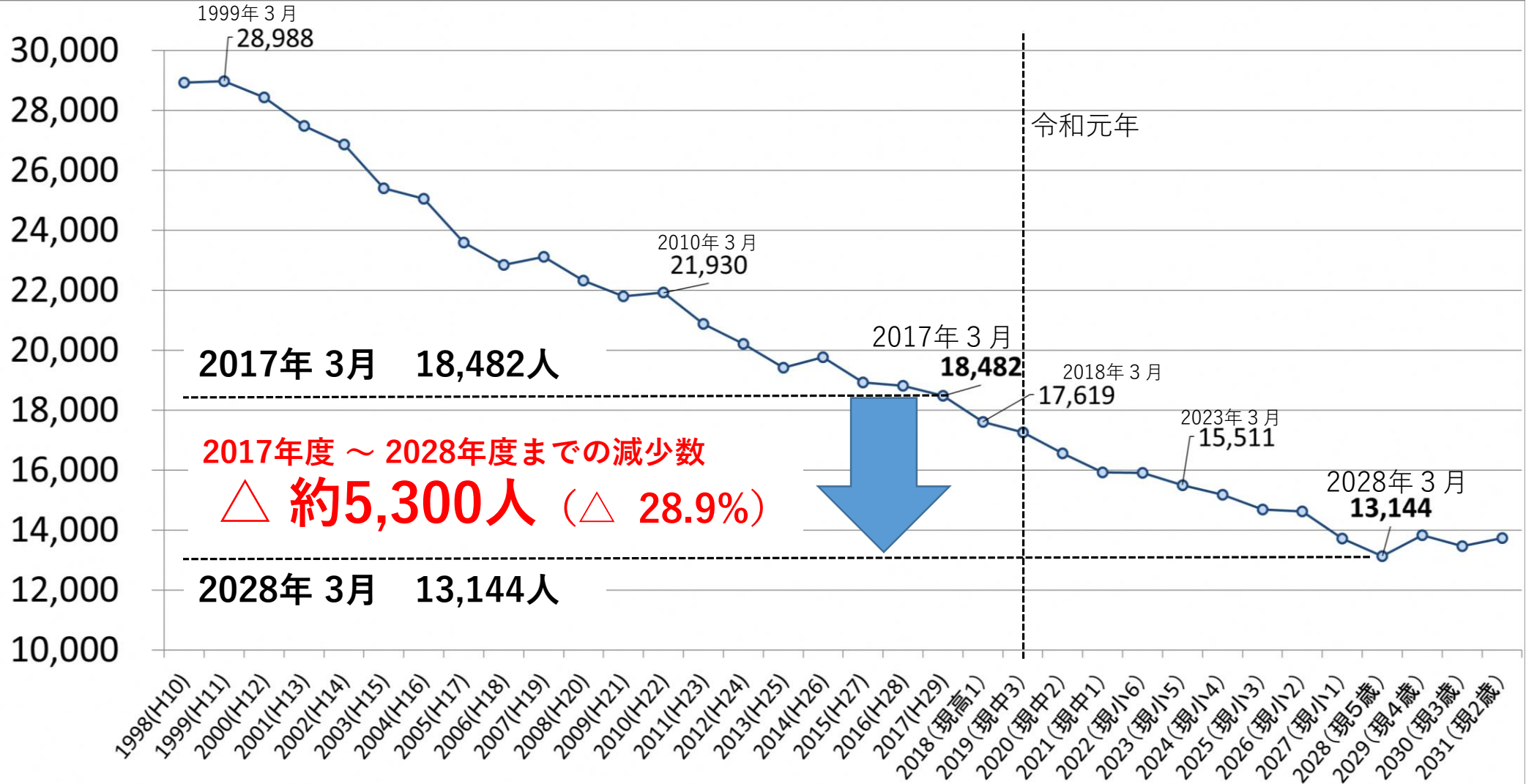
今後の再編整備について

1

県立高等学校前期実施計画策定の経緯

少子化の進行（中学校卒業見込者数の減少）

中学校卒業（見込）者数の推移（人）

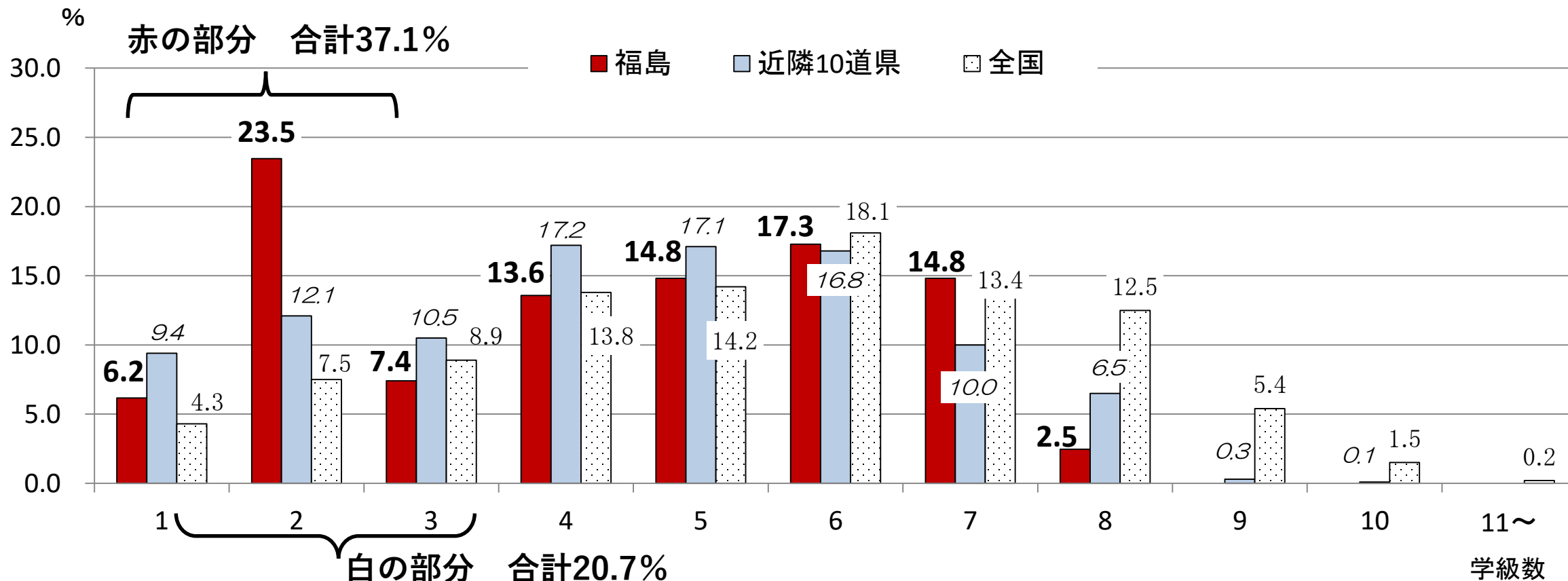


出典：2017年（平成29年）までは福島県企画調整部統計課編各年度の「学校基本統計（学校基本調査報告書）」から作成。
 2018年（平成30年）3月～2026年3月までは同調査における各学年の在籍者数をもとに作成。
 2027年3月以降は同課提供「福島県の推計人口」（2017年4月1日現在）の各年齢別のデータをもとに作成。

（年3月卒業）

県立高等学校の小規模校化

1学年当たりの学級数で見た学校規模の比較（福島県・近隣10道県・全国）



出典・「平成30年度全国公立高等学校第1学年定員等状況」(富山県教育委員会調べ)をもとに作成。
 分校を含む2018年度（平成30年度）都道府県立高等学校全日課程の募集定員。近隣10道県は、北海道、本県を除く東北5県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県。

本県の高等学校教育を取り巻く様々な動き

本県をめぐる社会情勢の変化

- 人口の減少・**少子化のさらなる進行**（中学校卒業予定者が10年間で約5,300名減少）
- 過疎化・高齡化（地域コミュニティの維持が課題）
- 高等学校教育を取り巻く状況の変化（例：主権者教育の重要性、大学入学共通テストの導入）
- 高等学校の小規模化（3学級規模以下の高校の増加）
- 生徒の**学習ニーズの多様化**（学ぶ意欲や目的意識、興味、関心、進路指導の多様化）
- **東日本大震災と原子力災害からの復興・再生**
（本県の復興に携わりたいという思いの芽生え、福島イノベーション・コースト構想の推進）

高等学校改革の必要性

県立高等学校改革計画「**第一次まとめ**」(平成9年)・「**第二次まとめ**」(平成11年)

福島県学校教育審議会 2017年(平成29年度) 答申
「社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について」



県立高等学校改革基本計画の策定 2018年 5月
(2019年度～2028年度) 10年間

県立高等学校改革**前期**実施計画 (2019年度～2023年度) 5年間

県立高等学校改革**後期**実施計画 (2024年度～2028年度) 5年間

県立高等学校改革の基本方針

基本理念

「本県の未来を切り拓くチャレンジ精神を持った人づくりを推進すること」

【4つの基本方針】

基本方針 1 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む
高等学校教育の推進

基本方針 2 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上

基本方針 3 **学校の再編整備・特色化による教育活動の魅力化**

基本方針 4 過疎・中山間地域の学習機会の確保と教育環境の
向上

再編整備・魅力化の基本的な考え方①

- **学ぶ意欲を引き出す望ましい学校規模（1学年4～6学級）**
1学年3学級以下の高等学校については、学校の魅力化を図りながら都市部も含めて統合を推進
- **望ましい学校規模への再編整備の推進**
同一市町内や隣接する市町にある複数の学校のいずれかもしくは双方の学校が望ましい学校規模を維持できない場合に統合を推進
望ましい学校規模の中で可能となる魅力化の推進

再編整備・魅力化の基本的な考え方②

- 進路に応じた特色ある高等学校の配置
- 社会の変化に対応した学科の適切な配置
- きめ細かな指導が可能となる教育環境の整備
- 学校の特色化と情報発信

6つの学校群

進学指導拠点校

進学指導重点校

キャリア指導推進校

職業教育推進校

地域協働推進校

定時制・通信制高校

小規模校のメリット・デメリット

【メリット】

- 学校がある地域の生徒が、負担なく通学できる。
- 小規模校ならではの、きめ細かな指導が可能である。

【デメリット】

- 生徒どうしが、切磋琢磨しながら社会性や向上心を育むことが難しい。
- 学級数減に伴う教職員数の減少により、多様な科目選択や部活動など学校の教育活動が制限される。

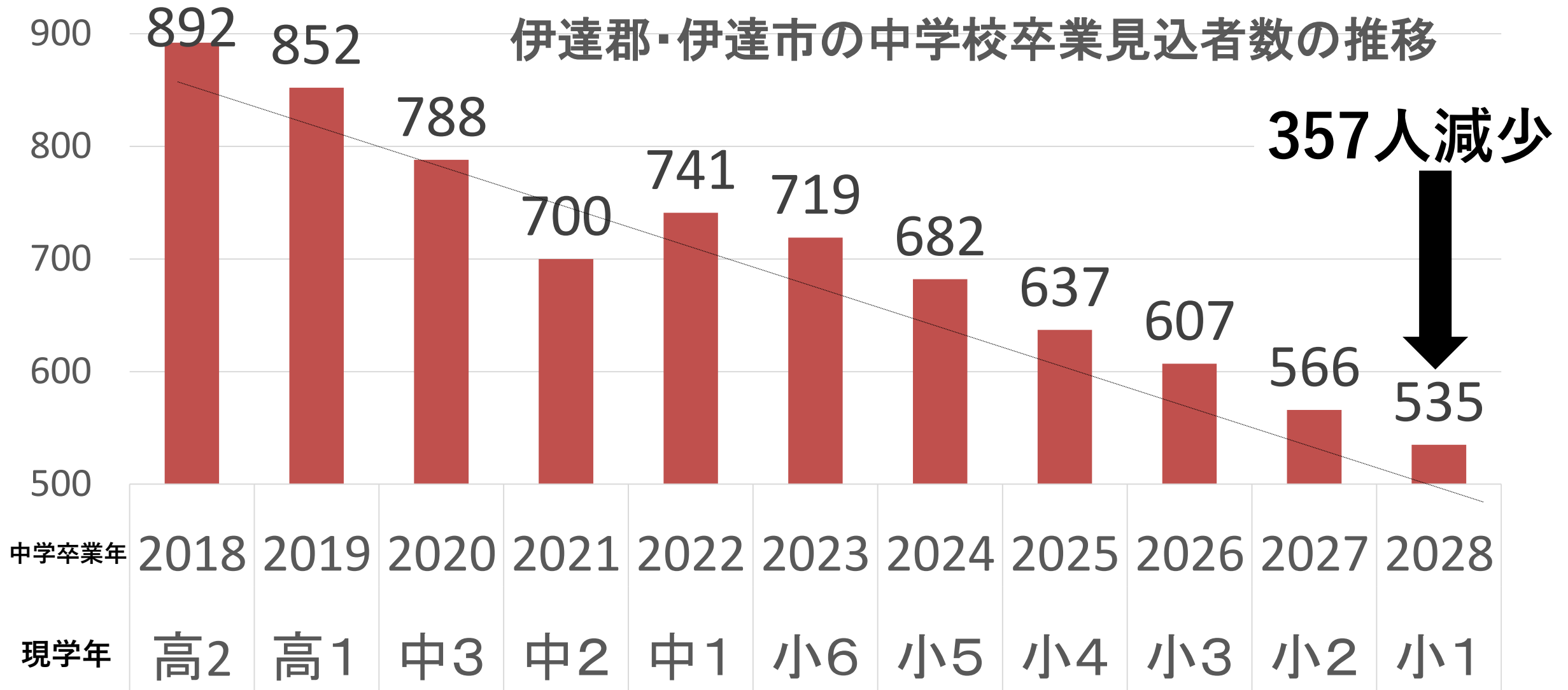
再編整備（統合）による効果

- 一定の集団規模を確保した望ましい学校規模の中で、生徒どうしが切磋琢磨しながら社会性を養い、人間性を育むとともに探究的な学びや他学科との学びの連携などの新たな取組をとおしてより深い学びが実践できる。
- 望ましい学校規模とすることによって、教員数が確保され、多様な選択科目や部活動からの選択が可能となる。

2

梁川高校・保原高校の現在の状況

少子化の進行 (中学校卒業見込者数の減少)



学校の沿革概要等

梁川高校

- 沿革（創立100周年）
 - ・ 大正 8年 4月 梁川町立実科高等女学校開校
 - ・ 昭和23年 4月 福島県立梁川高等学校と改称
 - ・ 平成21年 4月 創立90周年記念式典挙行
 - ・ 令和元年 11月 創立100周年記念式典挙行予定

- 設置学科（令和元年度現在）
全日制 普通科 1 学年 2 学級 計2学級

- 面積
学校敷地**15,433m²**
(建物敷地7,567m² + 運動場13,690m²)

保原高校

- 沿革（創立97周年）
 - ・ 大正11年 4月 福島県立保原中学校開校
 - ・ 昭和23年 4月 福島県立保原高等学校と改称
定時制を併設（藤田・桑折・掛田・月舘）
 - ・ 平成24年10月 創立90周年記念式典挙行

- 設置学科（令和元年度現在）
全日制 普通科 1 学年4学級
商業科 1 学年1学級 計 5 学級

- 面積
校地**33,484m²**
(建物敷地18,115m² + 運動場15,369m²)

進路状況（過去3年間）

学校要覧より

梁川高校

進路先	大学	短大	専門学校	その他	就職	合計
卒業年度						
30	1	3	8	1	34	47
29	1	3	14	0	28	46
28	1	3	20	0	52	76

保原高校

進路先	大学	短大	専門学校	その他	就職	合計
卒業年度						
30	28	19	60	4	107	218
29	31	16	57	0	90	194
28	32	24	74	0	92	222

部活動

【梁川高校】

・運動部

野球 ソフトテニス 陸上競技
バスケットボール 弓道

・文化部

美術 華道 音楽

【保原高校】

・運動部

野球 ソフトテニス 陸上競技
バスケットボール サッカー
バレーボール 水泳 柔道
剣道 卓球

・文化部

美術 華道 英語 合唱
新聞 家庭クラブ 吹奏楽
茶道 写真 商業研究
情報処理

入学状況

梁川高校

年度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
募集定員	120					80								
入学者数	119	112	112	80	80	73	68	61	76	52	49	42	43	29
充足率 (%)	99.2	93.3	93.3	100.0	100.0	91.3	85.0	76.3	95.0	65.0	61.3	52.5	53.8	36.3

保原高校

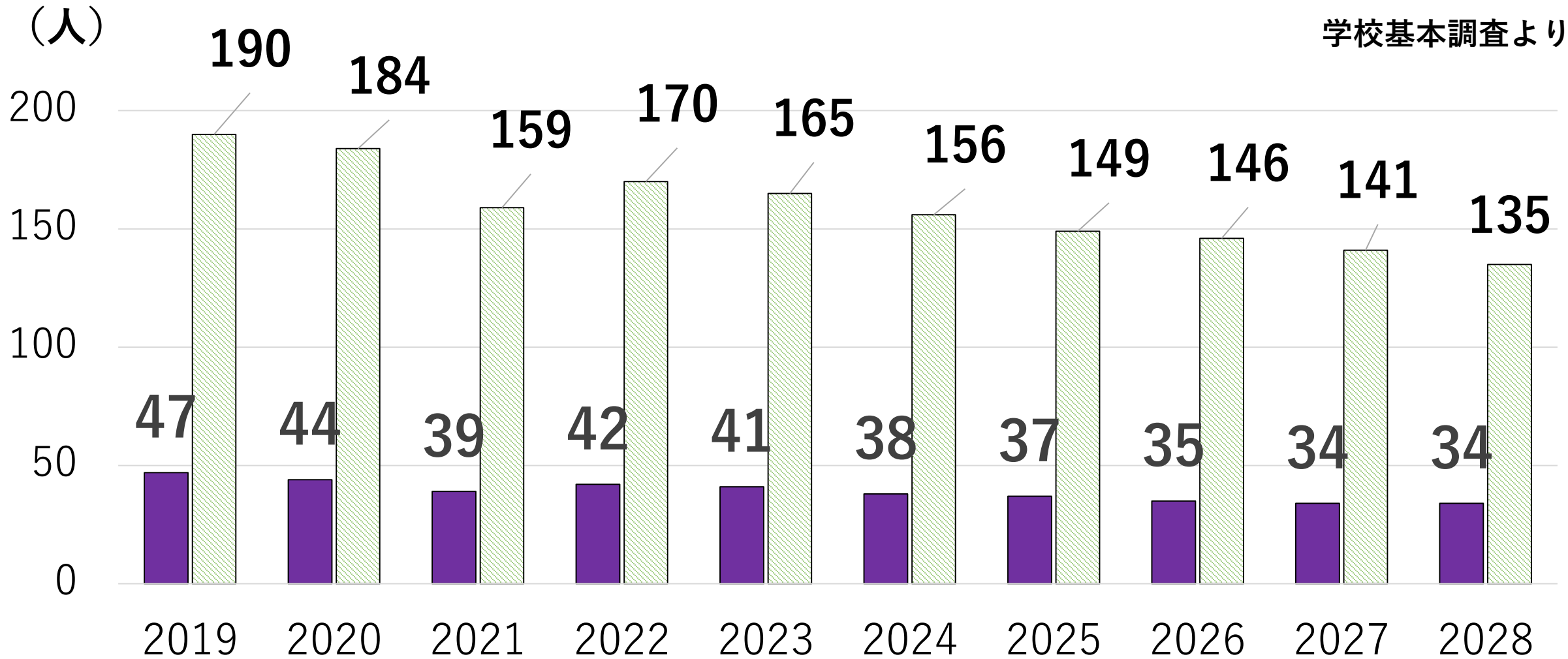
年度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
募集定員	240					200					160			
(上:普通、下:商業)	40					40					40			
入学者数	240	234	240	238	240	225	227	187	199	177	190	177	160	138
(上:普通、下:商業)	39	40	40	40	40	36	36	30	36	30	37	26	40	22
充足率(%)	100	97.5	100	99.2	100	93.8	94.6	77.9	99.5	88.5	95.0	88.5	100	86.3
(上:普通、下:商業)	97.5	100	100	100	100	90.0	90.0	75.0	90.0	75.0	92.5	62.0	100.0	55.0

平成30年度 伊達市・伊達郡地域の中学校卒業者の高校進学先

高校名 中学校名	卒業者数	進学者数	梁川	保原	福島	橘	福島商業	福島明成	福島工業	福島西	福島北	福島東	福島南	保原(定)	県北公立他	聖光学院	私立(福島市)	県外
桃陵中	156	155	7	47	15	6	10	1	5	7	1	10	12	4	0	14	9	2
松陽中	60	60	2	19	2	5	6	0	3	3	0	5	1	1	0	4	4	1
梁川中	153	150	13	42	3	4	9	5	15	9	0	6	7	6	0	15	10	1
伊達中	121	119	0	20	9	5	15	2	5	5	2	17	6	1	0	11	12	3
霊山中	60	57	2	11	3	4	3	1	3	5	0	1	1	2	1	9	8	1
月館中	26	26	0	6	0	1	1	0	0	2	0	3	0	0	3	4	2	0
醸芳中	113	113	2	12	7	9	4	6	11	5	7	17	1	1	0	15	8	2
県北中	82	82	1	3	7	6	2	4	5	9	7	5	3	0	0	12	15	0
川俣中	111	109	0	0	2	5	7	7	7	6	0	5	4	0	26	7	23	3
山木屋中	10	10	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	1	5	0
計	892	881	27	160	48	45	57	26	55	51	17	70	35	15	32	92	96	13
進学者に対する割合(%)			3.1	18	5.4	5.1	6.5	3	6.2	5.8	1.9	7.9	4	1.7	3.6	10	11	1.5

梁川高校・保原高校入学者予測

学校基本調査より



卒業年3月
(現学年)

■ 梁川高校入学者予測 ▨ 保原高校入学者予測

3

今後の再編整備について

統合校の方向性

梁川高校

- 普通科(定員80名：2学級)
進学26% 就職74%

保原高校

- 普通科(定員160名：4学級)
商業科(定員40名：1学級)
進学50% 就職50%

2023年4月開校予定
梁川・保原統合校（仮）

6学級規模（定員240名）普通科 場所：保原高校

梁川・保原統合校のイメージ

キャリア指導推進校

地域の未来を担う人材を育成

- 生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育活動の充実により、大学進学から就職までの進路希望を実現するために「キャリア指導推進校」に指定（県内21校）

普通科ならではの多様な学び

- 普通科の特色を生かす上でも商業の学びを継承しながら、生徒の学習ニーズや進路希望に合わせた多様な科目群（系列）の設置により、地域を支える核となる人材を育成

地域資源を生かした学び

- 地域資源を生かした体験的な学習と幅広い職業教育により、グローバルな視点を持った地域社会のリーダー育成や地域産業の核となる人材を育成

丁寧な学習指導と進路実現

- 両校における教育活動を継承し、少人数・習熟度別授業やアクティブ・ラーニング型の個に応じた丁寧な学習指導により、多様な進路希望の実現

ICTを活用した教育の推進

- ICT化が進む社会への対応力の育成、ICTを活用し、一人ひとりの到達度に応じた学習による教育の質の向上

検討する統合校の特色化

地域をフィールドとした探究的な学びの導入
商業の学びの継承

普通科の特色を生かした学び
コース制の導入

統合校ならではの特色選抜の活用

主体的・対話的で深い学びの実現

地域のリーダー育成
地域企業における就業体験・連携事業
コミュニティ・スクールの活用

ICTを活用した到達度別授業の実践
や国際交流

今後の予定

会議等のスケジュール

第2回改革懇談会 年度内

第3回以降の改革懇談会 必要に応じて開催

今後必要となる組織

改革懇談会でいただいた御意見を具現化するための組織

- **教育内容検討委員会**（両校の教職員で構成される検討委員会）
- **ワーキンググループ**（各校の校内検討委員会）